

受 賞 者 紹 介

(推薦調書より抜粋)

<担い手育成部門>

堀 江 佐 尚

<農業・農村振興部門>

熊 澤 宣 明

担い手育成部門



南知多町

ほり え さ なお
堀 江 佐 尚

堀江佐尚氏は、平成6年に完成した国営農地開発事業南知多地区内でいち早く露地野菜の機械化による大規模経営を確立しました。キャベツ、ブロッコリー、タマネギ、スイートコーンなどの栽培面積は延べ15haに上り、地域のトップクラスであります。

当時、担い手候補が多くなかった知多地域において、国営事業地区に入植した多くの新規参入者に対し、身近な先輩として栽培技術指導や経営相談を行い、経営確立を支援しました。

平成21年から露地野菜での就農をめざす研修生の受入れを開始し、平成24年度に始まった国の青年就農給付金（現 農業次世代人材投資資金）制度では「準備型」の研修機関として県の認定を受け、その指導者として研修生の指導を行うなど、これまでに計5名の研修生を南知多町・武豊町で就農に導きました。就農後も継続的に栽培技術指導や様々な相談に対応した結果、これらの研修生の経営は順調に規模拡大し、作付面積の増加率は2.4倍(就農時と現在の比較、5人の平均)となっています。

さらにその卒業生達が地域のリーダーとなり、新たな研修受入れ農家として担い手育成に携わる「広がりシステム」を構築しました。

また、農業委員、土地改良区理事、農用地利用組合長、農協理事などを歴任し、後継者の泰之氏に経営移譲した今でも担い手の確保育成及び地域農業の振興に貢献しています。

農業・農村振興部門



一宮市

くま ざわ よし あき
熊 澤 宣 明

熊澤宣明氏は、一宮市西成地区で水稲と露地野菜の複合経営を行っています。新しい栽培技術の積極的な導入と機械化により経営の効率化を図り、複合経営による規模拡大を実践してきました。複合経営が経営リスクを減らし、経営の安定につながることや、地域の農地を守る手法として優れていることを関係者に示してきました。その影響で、新規就農者を含め、近隣農家でも水稲と露地野菜の複合経営が近年増加しています。

農業従事者が年々減っている中、地域農業の維持、発展のためには専門農家の育成が不可欠ということで、JAが主催する農業塾の取組を拡大し、地元2市を巻き込んだ「はつらつ農業塾」へと発展させています。氏は農業塾の発足当初から運営に深く関わり、「担い手育成コース」の卒塾生を専門農家にすべく、積極的に支援を行ってきました。支援を受けた卒業生は地域へ早く溶け込み、活躍することができるようになってきており、将来の担い手候補となりつつあります。

環境保全型農業にも関心が高く、エコファーマー制度が発足すると同時に、尾張農協ダイコン部会の部会員全員の取得をすすめました。

また、レンゲを利用した米作りによる特別栽培米地域ブランドの創設や、家庭及び事業者から排出される食品残さの堆肥化実証試験などに取り組み、野菜生産に堆肥を使用することにより再資源化を図る「地域循環システム」の確立にも貢献しています。

このほか、営農部会長、農業委員会長、農協組合長などを歴任し、氏の優れた指導力は地域の農業・農村振興に大きく貢献しています。